

デジタル人材育成学会選出

「宮大モデル」初代大賞

宮崎大（宮崎市、鮫島浩学長）が取り組んでいるICT人材育成のプログラム「宮崎ーバンングラデシユ・モデル」が、デジタル人材育成大賞（デジタル人材育成学会主催）の初代大賞に選ばれた。産学官が連携して育成したバンングラデシユ出身の人材を継続的に本県企業などに輩出する取り組みが高く評価された。

バンングラ留学生包括支援

同大賞は全国の企業や大学などでつくる同学会が、デジタル分野での人材育成の模範となる活動を発掘し、全国展開につなげようと本年度に創設した。

同プログラムは2017年、同大学と国際協力機構（JICA）、同市や県内の企業などが連携してスタート。宮崎大に留学生として招いた若手人材に対



産学官で国内就職つなげる

し、ICTや日本語の教育、企業へのインターシッピなどを行い就職を支援する仕組み。21年度からは新興出版社啓林館（大阪市）の寄付講座を中心に運営している。

同大学によると、プログラムを修了し国内就職したバンングラデシユ出身の留学生は約200人で、このうち約70人が県内企業に就職している。

20日に同大学で受賞式があり、同学会の角田仁会長（千葉工業大教授）から鮫島学長と同社の本間文勝専務に表彰状が手渡された。

角田会長は「就業や生活支援まで一貫した流れがあり、産学官が同じ方向を向いて顕著な実績を挙げた他にない事例。ぜひ継続、発展してほしい」と話した。（草野拓郎）

デジタル人材育成大賞の初代大賞に選ばれ表彰状を受け取った鮫島浩宮崎大学長（写真右）と本間文勝・新興出版社啓林館専務（同中央）
20日前、宮崎市・宮崎大